

平成20年7月1日号



写真：弥栄の大橋と桜（撮影：尾中祥子医師）

弥栄大橋は、山口県最東部に位置する岩国市美和町と、広島県大竹市との間の弥栄湖（弥栄ダム）上に架かる、美しいダム橋です。全長は560mもあり、西日本最大級ですが、すばらしい自然との調和も楽しむことができます。

「地域医療の現場より（岩国市立美和病院 尾中祥子医師）」……………2

山口県からのお知らせ（山口県医師確保総合情報サイト

「やまぐちドクターネット」を開設!）」……………7

今後継続発送を希望される方の手続き方法……………8

「地域医療の現場より（岩国市立美和病院 尾中祥子医師）」

～ 在宅医療を実践。「地域医療は、『安心』の提供」 ～

第7回の「地域医療の現場より」は、岩国市の山間部美和地域の公立病院「岩国市立美和病院」で、地域医療に従事されている女性医師、尾中祥子さんにお話をうかがいました。

～ 尾中祥子（おなか さちこ）医師
プロフィール ～

- ・ 昭和56年 山口県立防府高校卒業。
- ・ 平成元年 自治医科大学卒業。
- ・ 平成13年5月より、
岩国市立美和病院（旧町立美和病院）に勤務。現在に至る。



趣味は、読書のほか、バイクでの「ツーリング」と、多趣味です。

写真撮影にも興味をお持ちで、表紙の写真も「お気に入りのスナップ」とのことです。



Q1:まずは、尾中先生が医療に興味をもたれた「きっかけ」について教えてください。

そうですね、きっかけですか。私の父は、小児麻痺を患っていたんですが、そのため「医師」という職業に関しては、実は小さいころから興味はあったんです。でも、漠然としたもので、決して「具体的なもの」ではありませんでしたね。

そんな中、直接的にきっかけを与えたのは、漫画の「ブラックジャック」なのです。ご存じのとおり、不治と思われる患者さんを、“神業”のような腕で、切って、治す、…その姿に、憧れました。（あれは、あくまでも「漫画」の世界だったんだなあ、今では分かってますが（笑））



Q2:ブラックジャックですか。それは、意外な回答でした(笑)。ところで、先生は、ここ美和病院の勤務歴が5年になると伺っています。へき地で地域医療に従事することについての、先生の率直な思いを教えてください。

いわゆる「へき地」では、物質的な面において、市街地に比べて不足や不利な点が多く、住んでいらっしゃる方には、どうしても不便が強られる面があると思います。例えば、山間部の奥の方では、救急車が患者さん宅にあがっていくまでに片道40分近くかかる場所もあります。

最近、「効率」の面がクローズアップされることも多いですね。田舎の病院は、「効率」ということでは良くないところも確かにあるかもしれません。でも、必要なのです。

へき地で地域医療に従事している立場として、これ以上、「へき地」を取り巻く医療の状況が悪くなってしまわないことを祈らずにはおれません。

そうそう、時々「最新医療の情報収集ができるか」という質問をいただくこともあります。インターネットの普及のおかげで、必要な情報もあまり時間がかからずに入手ができるし、不便という感じは、あまりしていません。

Q3尾中先生が日常診療を行う上で、「モットー」とされていらっしゃることは、ズバリ、なんでしょう？

特にモットーというほどのものはないのですが、「しっかり聞く」ことでしょうか。

Q4「しっかり聞くこと」は、尾中先生のお人柄から、想像に難くありません。

しっかり聞くことは、地域医療の原点のようなものかもしれませんね。しっかり聞いて、日常診療に誠意をもって取り組み、患者さんから、笑顔や「ありがとう」の言葉がいただけたとき、月並みですが、やっぱりうれしいですね。



Q5反面、日常診療で、「つらいなあ」と感じることはありますか？

もちろん、「つらい」こともあります。患者さんの身体に深刻な疾患が見つかった時、あるいは、身体状態が悪くなった時など、やはりつらいです。「こうしておけば、もしかしたら良かったのではないか？」など、考えて、悩んでしまうこともありますね。そんなケースはつらいです。

Q6美和病院では、在宅医療にも力を入れて取り組んでいらっしゃるかと伺っております。尾中先生から見て、その「やりがい」「魅力」などありましたら、教えてください。

はい、島田院長を始め、美和病院のスタッフみんな、在宅医療に長年取り組んでいます。

「在宅医療」は、「患者さんの病気をみるだけ」とは、ちょっと違うんです。

なかなか一言では表現しにくいんですが…。例えば、「できるだけ自宅で過ごしたい」という感情は、病気を持っていても、誰でも、自然に持つと思います。でも、その一方で、「家族に迷惑をかけたくない」という、相反する気持ちも、地域の患者さんの中に垣間見ることも少なくありません。

また、同居する家族、すなわち、介護する側からいえば「できるだけ、患者さんを、自宅でみてあげたい」という気持ちはあっても、高齢のため、仕事のため、現実には身体や気持ちがついていけないということもあると思います。

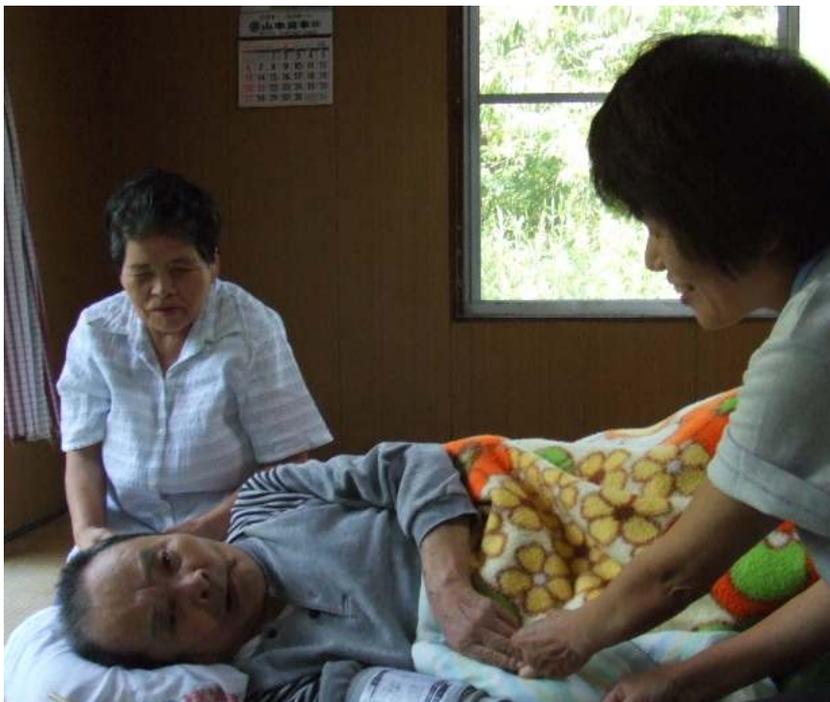
「在宅医療」を支える私たちには、患者さんの病気だけでなく、ご本人そして家族・介護者の心理面でのサポートでも、非常に大きな役割があると思っています。

病院の診察室内に限定した診療のみでは「病気」だけを見がちになってしまいますが、「在宅医療」をさせていただくことで、診察室で聞いただけではなかなか分からない、ご自宅の状況、暮らし方なども良く分かりますし、

「介護」に携わっている家族の方のお話もゆっくり聞くことができます。

私たちは、そこから、必要な医療・介護サービスなどを「提案」していきます。患者さんだけでなく、介護の方にも負担が少なくなるように、かつ満足していただけるように…。

そして誠意を持って、そのサービスの提供に努めます。「100%」ということは難しいですが、ある程度までの家族生活のセッティングをしてあげることができる…、そういったところが「魅力」ではないかと思えます。



※在宅医療の患者さん、家族、スタッフ（患者さんから掲載の了解をいただいています）

Q7患者さん、そして家族を含めた視点で、生活を支える提案…。在宅医療の魅力が伝わってきます。ただ、難しい点も実際にはあるんでしょうね？

みなさんもお存じとは思いますが、へき地における、この在宅医療の現場では、高齢のご夫婦間あるいは親子間での介護が当たり前のように行われています。「親子」といっても、親御さんが90代であれば、そのお子さんは60歳～70歳代。決して「若い」とはいえません。

介護保険の制度があるとはいえ、在宅医療では、介護負担の多くは家族にかかっています。先ほど、在宅医療の魅力を述べ、私たちが、患者さんと家族の視点で、心身の負担の軽減や満足感などを提供できるよう努めていることを言いました。

ですが、マンパワーだけでなく、必要な設備・物品面での不足、また金銭的な問題なども、それぞれの家庭にあり、「医療サイドから見れば、当然、必要」と思われること全てが、できるわけでないのです。

在宅医療に長年携わり、地域の状況が分かれば分かるほど、私たち医療従事者の限界、ジレンマを感じることもあるのも事実です。

また、田舎では、「お年寄りはお家の人がみるもの」といった、周囲からの無言の圧力も、まだまだ残っているのではないかな…と、思うこともあります。



Q8 いろいろ、現実的な御苦労も、あるのですね。先生にとっての「気分転換法」「はまっていること」など教えていただけませんか？

最近、身近な花に興味があり、道端に咲いている花や木の写真を撮ったり名前を調べたりしています。ここ、美和には、今でも自然が多く残されており、これまで見た事のないような花もあちこちに咲いていて、とても面白いんですよ。



左写真：シャガ（春には山のあちこちに見られます） 右写真：ヤマシャクヤク（尾中先生メモより）

Q9 尾中先生は、この美和で、自分流の楽しみ方を見つけていらっしゃるな、と感じました。では、尾中先生にとって、美和での「地域医療」を一言でたとえると、どういった言葉が一番ピッタリきますか？

う～ん、「美和の地域医療」とは…。そうですねえ、「安心」ですかね。

住民の方々からみれば、私たちの存在って、健康な時にはあまり意識されないけれど、何か体調が悪くなった時には、「あそこの病院があるから、やっぱり安心だ」と思ってもらえる、そんな存在ではないかと思うのです。

Q10 なるほど…。では、今後、「こういう診療をしてきたい」など、診療における抱負について、教えてください。

美和病院に勤務させていただいて丸5年が経過しました。以前から興味を持っていた「在宅医療」に、今、関わらせていただいて感謝しています。

これからも、個々人の生き方・考え方を尊重しつつ、患者さんとのよい関係が築いていけるような診療ができればいいなと思います。



Q11 若い読者(これから医療の仕事をしたいと思っている人や医学生など)にメッセージをお願いします。

医師になろうと思ったきっかけを最初にお話しましたが、当初、私は「外科医」を志望していました。ただ、医師になり、実際に地域医療の現場で診療をしていくに従って、この「地域医療」が、とても面白い、やりがいのある仕事だと思えてきました。

「大きな病院」と、「専門科」。もちろん、これらは必要です。でも、高血圧症、糖尿病など、一般的によく見られる病気“common disease”に精通し、そして、家族との暮らしなどを含めた幅広い視点で患者さんに関与し、時には「医療」だけにとどまらない…、そういった「地域医療」も必要ですし、面白いですよ。

Q12 どうも、ありがとうございました。
在宅医療を中心に、いろいろお話が聞けて、とても良かったです。

これからも、がんばってください。

こちらこそ、ありがとうございました。



山口県からのお知らせ

山口県医師確保総合情報サイト

「やまぐちドクターネット」を開設！

山口県では、県職員として採用し、地域の公的医療機関等で勤務していただけの医師の募集や、将来県内の公的医療機関等での診療を志望する医学生を対象とした医師修学資金や、専門医（後期）研修医の研修資金の貸付など、山口県の地域医療に貢献する医師を支援する様々な取組を行っております。

このたび、これらの取組や県内の医療機関の情報などを掲載した山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」を開設しました。

また、本ホームページから「やまぐちドクターネット」に登録された医師、研修医、医学生の方には、県の医師確保の取組に関する情報をはじめ、県内医療機関の情報、臨床研修情報などをメールマガジン等で提供することを予定しております。

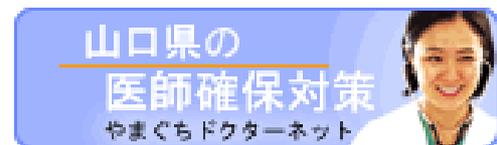
詳細については、「やまぐちドクターネット」を御覧ください。



- 登録ホームページ「やまぐちドクターネット」

URL : <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp>

- ※ Yahoo!やGoogleなどの検索サイトで、「やまぐちドクターネット」で検索。
- ※ 山口県のトップページの「くらしの情報」をクリックし、「注目サイト」にある下記バナーをクリック



- 連絡先

山口県健康福祉部地域医療推進室医師確保対策班

TEL 083-933-2937(直通)

FAX 083-933-2939

E-mail a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

URL <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a151001/index/>

この「山口県医療の風便り」を今後も継続希望される方の手続き方法

今回の第7号では、岩国市の美和地域で、在宅医療を含めた地域医療に取り組んでいらっしゃる尾中祥子先生に御協力いただきました。尾中先生は、やさしく落ち着いた口調で会話される、女性医師。

写真の趣味をお持ちなので、今回、たくさん掲載させていただきました。花や自然に親しむ気持ちは、どこか、やさしい地域医療の姿勢に通じるものがあるのだろうと想像いたしました。尾中先生、ありがとうございました。これからも、美和病院のスタッフの皆さん、がんばってください。

この「山口県医療の風便り」は、今後もいろいろな視点から情報を幅広く集め、内容を充実させながら、無料で発送させていただく予定です。次回第8号以降も、ご希望の方々に発送させていただきます。

つきましては、今後の発送をご希望される方は、お手数ですが、

①ご氏名 ②ご年齢 ③ご住所（送り先） ④メールアドレス（お持ちの場合）

をご記入の上、●FAX（裏頁の申込書を使用）または●電子メール（「山口県医療の風便り継続希望」とご記入ください）にてお申し込みください。

この風便りの内容についてのご意見やご希望、さらには、「読者より一言！」への投稿（400字以内でお願いします。）などもお待ちいたしております。

※ なお、これまでに「継続希望」のお申し込みをいただいた方は、改めてお申し込みいただく必要はございません。

申込先：

山口県健康福祉部地域医療推進室 宛て
〒753-8501 山口県山口市滝町1-1
FAX：083-933-2939
メール：a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」でも「山口県医療の風便り」を御覧いただけます。

山口県医療の風便り継続申込書

FAX：083-933-2939

（山口県健康福祉部地域医療推進室 担当行）

●今後も「山口県医療の風便り」の発送を希望します。

ご氏名	
ご年齢	
ご住所（ご送付先）	（〒 - ）
メールアドレス （お持ちの場合）	@
この山口県医療の風便りに 関するご意見やご希望など （自由記載欄）	